

海域	経過 (12～1月)	現況(2月上旬～ 2月中旬)	見通し (3月～4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>・定地水温:12月は平年並み、1月はやや低め～高めで推移した。</p> <p>・12月の海洋観測の結果、津軽暖流域の0m、50m、100m各層の最高水温はいずれも平年並みであった。また、津軽暖流の水塊深度はやや浅め、東方への張り出しははなはだ東偏であった。</p>	<p>・定地水温:平年並みで推移している。</p> <p>・2月の日本海海洋観測の結果、対馬暖流域の最高水温は0m、50m、100mの各層とも平年並みであった。</p>	<p>・津軽暖流域の水温は平年並み～やや高めで推移する。</p>	<p>・直近の太平洋沿岸定地水温、日本海海洋観測結果とも平年並み基調で推移しており、太平洋および我が国周辺の漁海況予測システムFRA-ROMS IIでは、沿岸域は高め基調の予測となっている。</p> <p>・気象庁の季節予報によると、3～4月の気温は平年並み～高めと予報されている。</p>	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>【12月】(11/28) 《表面水温》 10海里以内は12～16℃台であり、黒埼定線で「やや低い」～「平年並」、トドヶ埼定線で「平年並」～「やや高い」、尾埼定線で「やや高い」～「高い」、椿島定線で「やや高い」～「高い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は10～15℃台であり、黒埼定線で「やや低い」、トドヶ埼定線で「やや高い」、尾埼定線で「やや高い」、椿島定線で「平年並」～「やや高い」となった。</p> <p>※悪天候のため、10海里以内の観測となった。</p> <p>1月:調査船定期検査のため欠測となった。</p>	<p>【2月】(2/3、2/6～2/7) 《表面水温》 10海里以内は7～8℃台であり、黒埼、トドヶ埼定線で「平年並」～「やや高い」、尾埼、椿島定線で「平年並」となった。</p> <p>20～50海里は6～10℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「高い」、トドヶ埼、尾埼定線で「平年並」、椿島定線で「平年並」～「やや高い」となった。</p> <p>《100m深水温》 10海里以内は7～8℃台であり、黒埼定線で「平年並」、トドヶ埼定線で「平年並」～「やや高い」、尾埼、椿島定線で「平年並」となった。</p> <p>20～50海里は6～8℃台であり、黒埼定線で「平年並」～「やや高い」、トドヶ埼定線で「平年並」、尾埼、椿島定線で「平年並」～「やや高い」となった。</p>	<p>3月は、100m深は全域で「平年並」と予測された。</p> <p>各0海里定点の10m深は全ての定点で「平年並」と予測された。</p>	<p>農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した、水温経験的予測システムを用いて解析した。</p>	特になし。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p>【12月】 天候不良により、38°ラインのみ観測を実施。表層水温は2.7～4.4℃、100m水温は0.5～3.3℃高め。</p> <p>【1月】 「みよしお」ドックのため沿岸定線観測休止。 仙台湾では黒潮系暖水波及の影響により、海底直上水温で最大3.6℃高め。</p>	<p>【2月】 「みよしお」ドックのため沿岸定線観測休止。</p>	<p>黒潮系暖水波及の影響により、表層および100m深水温は高め、142°20'以西沿岸では、高めから平年並みに推移する見込み。</p>	<p>FRA-ROMS参照。 岩手県沿岸観測結果参照。 海上保安庁「海洋状況表示システム」参照。</p>	<p>沿岸側波及暖水が房総～仙台湾、三陸南部沿岸に分布。北上した黒潮続流は、仙台湾～常磐北部沖で南下した親潮系水と潮目を形成して東に流去((一社)漁業情報サービスセンター表面水温2/3)。</p>
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水海セ発表)	<p>【12月】 《100m深水温》 北部沿岸は「やや高い」 中部沿岸は「高い」 南部沿岸は「やや高い」 黒潮続流(200 m深14℃以上)は塩屋埼定線(南部海域)及び富岡定線(中部海域)の距岸50海里、鵜ノ尾定線の距岸70海里に確認された。</p> <p>【1月】 北部沿岸は「やや高い」 中部沿岸は「高い」 南部沿岸は「極めて高い」 黒潮続流は塩屋埼定線の距岸50海里、富岡定線の距岸60海里に確認された。</p> <p>※北部:37° 50'N</p>	<p>【2月】 《100m深水温》 北部沿岸は観測未実施 中部沿岸は「やや高い」 南部沿岸は「極めて高い」 黒潮続流は塩屋埼定線の距岸50海里に確認された。</p>	<p>【3月】 「やや高い」～「極めて高い」</p> <p>【4月】 「やや高い」～「極めて高い」</p>	<p>水温を変動要因とした自己回帰分析による水温予測では、福島県海域142° 00'E以西における100m深水温は3月、4月ともに「高い」と予測された。そのうち岸寄りでは「やや高い」、南部海域の沖寄りでは「極めて高い」と予測された。</p> <p>FRA-ROMS IIの予測によると、3月の福島県海域142° 00'E以西における100m深水温は、平年差+1℃～+5℃の領域が存在しており、大部分は「極めて高い」に相当している。</p>	<p>【漁況】 シラス漁が1月末まで続いた。1月にシラスの水揚げがあったのは2012年以降初である。</p> <p>【海況】 距岸50海里以内への黒潮続流の波及が観測されたのは、2月で5か月連続となった。1968年以降の海洋観測の記録上、こ</p>

	中部:37° 25'N 南部:37° 00'N				れまでに同様の現象が連続したのは2018年4～5月の2か月が最長であった。
常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸；茨城水試発表)	<p>【12月】 0～50m深では「平年並～やや高め」、100～200m深では141° 30'E以東の黒潮域で概ね「平年並～高め」、他で「平年並～やや高め」となった。10月中旬以降、茨城県沖で黒潮が立ち上がり、その反流によって本県沿岸域も暖水で覆われた。</p> <p>【1月】 黒潮の立ち上がりが継続したことにより、0～100m深では概ね「やや高め」、200m深では会瀬～大洗で概ね「平年並」、鹿島～犬吠埼で「平年並～高め」となった。</p>	気象庁「海洋の健康診断表」によると、黒潮の立ち上がりが継続しており、0m深は13～20℃台、100m深は黒潮流路で17～18℃台、他で12～13℃台となり、0m深で概ね「やや高め」、100m深で概ね「やや高め～高め」となった。	黒潮が立ち上がった状態で、茨城県沖において接岸傾向で推移した場合、全層で「やや高め～高め」となる見込み(離岸傾向で推移した場合には、親潮系冷水が本県沿岸域へ差し込み、水温が低下する可能性もある)。	FRA-ROMS IIによる。	船曳網によるシラスの漁獲が継続しており、カタクチイワシの中にウルメイワシが含まれている(要因として、黒潮が立ち上がった影響が考えられる)。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.3℃～	+3.8℃～	+6.1℃～	+5.8℃～	+4.9℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.2～+3.2℃	+2.4～+3.7℃	+3.9～+6.0℃	+3.8～+5.7℃	+3.2～+4.8℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.9～+2.1℃	+1.0～+2.3℃	+1.6～+3.8℃	+1.5～+3.7℃	+1.3～+3.1℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.8～-0.8℃	+0.9～-0.9℃	+1.5～-1.5℃	+1.4～-1.4℃	+1.2～-1.2℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.9～-2.1℃	-1.0～-2.3℃	-1.6～-3.8℃	-1.5～-3.7℃	-1.3～-3.1℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.2～-3.2℃	-2.4～-3.7℃	-3.9～-6.0℃	-3.8～-5.7℃	-3.2～-4.8℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.3℃～	-3.8℃～	-6.1℃～	-5.8℃～	-4.9℃～	-6.1℃～

1991年1月～2020年12月の100m深度の観測水温を基に階級区分している